



EL SALVADOR

学校名：川口市立飯塚小学校

氏名：樋地 香奈子

[担当教科：小学校全教科]

● 実践教科等：総合的な学習の時間、
道徳、社会科

● 時間数：8時間

● 対象生徒：小学校6年生

● 対象人数：39人

1 単元名

世界に目を向けて～これからあなたも世界市民～

2 単元の目標（ESDの能力・態度）

- ・エルサルバドルの学習をとおして、世界の国々に関心をもち、多様な文化や生活、価値観があることに気付く。（多面的・総合的な思考力）
- ・エルサルバドルをはじめ、世界が抱える問題について知り、自分にできることや生き方を考えながら自分自身と向き合う。（自己の生き方の追究）
- ・エルサルバドルで活躍する日本人について学び、世界と日本のつながりに気付き、互いに助け合う共生の心を培う。（つながりを尊重する態度）

3 ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性
-----	-----	-----	-----	-----	-----

- ・エルサルバドルと日本の生活を比較し、多様な文化や価値観があることに気づく。【多様性】
- ・エルサルバドルと日本のつながりに気づき、共生の大切さを学ぶ。【連携性】
- ・エルサルバドルが抱える問題について知り、自分にできることや生き方を見つめる。【責任性】

4 単元の指導について

(1)教材観

児童はこれまで総合的な学習の時間において、福祉や身の回りの地域、日本の良さについて探究をしてきている。そして今、小学校卒業を目前にし、中学進学に向けての準備やこれからの自分の将来と向き合う時期となっている。そこで、世界に目を向け視野を広げながら、一步深く自分の生き方を見つめてもらいたい、世界には多様な文化や価値観をもった人々がいること、そしてそういった自分とは異なる他者を受け入れ、共に協力し合って生きていくことの大切さを実感してもらいたいと考える。

学習指導要領解説には、「(7)国際理解に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、諸外国の生活や文化などを体験したり調査したりするなどの学習活動が行われるようにすること」とある。実際に児童自らが外国の生活や文化を体験することは難しい。そこで、教師である私自身が実際に訪問し体験したことを教材化することで、児童の興味が世界に向けられ、その関心を身近に引き寄せながら自己の生き方を探究していく態度を養うことができると考え、この教材を設定した。

(2)児童観

学級児童は、サッカーのワールドカップで日本と対戦した外国について興味をもったり、テレビの番組で様々な国の様子を知ったり、英語を習っていたりと、外国の人を目にする機会が多くある。校内にも国籍の違う児童や親が外国籍である児童もあり、直接関わりながら生活もしている。

そこで、本単元の前に児童に「行ってみたい国」についてのアンケートを行った。するとアメリカやヨーロッパ諸国、中国・韓国など、いわゆる先進国や日本に近い国の名前が多く挙がった。外国に対して興味をもっている一方で、アフリカ諸国や中南米地域などの発展途上国をはじめ、知らない国が多くあり、児童の中で「世界の国のイメージ」が偏ったものであることがわかった。

また、それぞれの国の文化や習慣など、深く考える経験が少ないと思われる。そこで今回は、児童がほとんど聞いたことがないであろう中米の「エルサルバドル」という国を教材にして、児童の視野を広げていきたいと考えた。

(3) 指導観

児童にとっては、初めて名前を聞くような「エルサルバドル」という国の生活や文化をただ紹介するだけでは、知識理解の範囲で終わってしまうであろう。そこで、自分たちと同じ年の子どもたちがどんな学校生活を送り、どんなことを考えているかという部分に焦点をあて、具体的なもので自分たちと比べていく。その中で、自分たちとの共通点から他国をより身近に感じられたり、相違点から多様な価値観を学んだりすることができる考えた。

また単元全体をととして、フォトランゲージの手法をはじめ、体感型ワークショップや他国と自国との比較検討など、児童にとっては他教科でもあまり経験のない活動や学習形態を取り入れている。扱う教材については新鮮味があり、児童は意欲的に取り組むことができるであろう。しかし、初めてのことで戸惑う場面も多く見られると予想される。そのためグループでの活動を主とし、皆で課題と向き合い協力して解決していく態度を育てながら、国際協力という視点をふまえ、これからの自分たちの生き方に繋げていけるような支援をしていきたい。

5 評価規準

観点	ア 問題解決能力	イ 自己を見つめ、自己を高めていく力	ウ コミュニケーションの力
評価規準	情報を整理・分析しながら、世界が抱える問題や自分の生活に対する課題を見つけ、解決への道を考えようとしている。	世界の国の現状や課題を知り、その問題を自分と結びつけて、自分の生活や生き方を見つめ直そうとしている。	グループや全体での話し合い活動を通して、友達の考えの良さに気づき、自分の考えを伝えようとしている。
評価方法	ワークシート	ワークシート	模造紙、発言

6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	【エルサルバドルについて知ろう】 〈総合的な学習の時間〉	・エルサルバドルの文化や自然について知り、世界の国に興味・関心をもつ。	・エルサルバドルについての基本的な知識を2択クイズにして行い、この国へのイメージや興味・関心をもつ。
2		・エルサルバドルの写真から様々な情報を見つけ出し、日本との共通点や相違点に気づく。	・5枚の写真をもとに、グループごとにフォトランゲージを行い、疑問に思ったことや気づいたことを自由に交流し合う。
3	【エルサルバドルと日本の学校を比べよう】 〈総合的な学習の時間〉	・エルサルバドルと日本の学校の時間割を比較し、自分たちの学校生活との共通点や相違点に気づく。	7 授業事例の紹介に詳しく記載
4		・学校の様子を写した写真から、エルサルバドルが抱える問題について考える。	
5	【幸せって何だろう？】 〈道徳〉	・エルサルバドルと日本の学校のそれぞれの良さや課題について考える。	・エルサルバドルと日本の子どもたちの幸福度を予想し、その理由からそれぞれの学校の良さや課題を話し合う。
6		・エルサルバドルの6年生にとったアンケートをもとに、幸せの価値観が多様であることや、教育の大切さについて考える。	・エルサルバドルの6年生にとったアンケートと同じ項目のものを事前に行っておき、自分たちの結果と比べ、考察する。
7	【世界に目を向け、今の自分にできることを考えよう】 〈道徳・社会科〉	〈道徳〉 ・世界の現状を体験的に知り、共生について考える。	・ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」を行い、世界の現状を体感し学ぶ。
8		〈社会〉 ・青年海外協力隊の活動を知る。	・エルサルバドルで活躍する日本人の生の声を聞き、世界と日本のつながりを知ると共に、自分にできることを考える。

7 授業事例の紹介

小単元名【エルサルバドルと日本の学校を比べよう】

(1) 指導案

(ア)実施日時

10月27日(月)第2限(第3時)、10月29日(水)第2限(第4時)※本時として詳しく記載

(イ)実施会場 6年2組教室

(ウ)本時の目標

エルサルバドルと日本の学校生活を比べながら、それぞれの学校の特色や課題について考える。

(エ)指導のポイント

- ・時間割や現地で撮った写真をもとに「自分たちで読み取る」ということに焦点を置き、教師は中立的な立場をとることで、児童の自由な発想や気づきを大切にしたい。
- ・時間割の比較から出た疑問や気づきが、次のフォトランゲージでさらに考えを深めてつなげていけるよう、なるべく日本との違いがわかるような写真を選んだ。

(オ)本時の展開

時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
第3時	・エルサルバドルの時間割を見せ、授業の内容や時間に着目しながら、日本と同じところや違うところをたくさん見つけさせる。	・エルサルバドルと日本の時間割を比較し、共通点や相違点、疑問点をワークシートに書き出す。 	個人	・スペイン語を日本語訳にしたものを児童一人一人に渡す。 	・情報を整理・分析しながら、世界が抱える問題や自分の生活に対する課題を見つけ、解決への道を考えようとしている。 【ワークシート】
本時の導入10分	・前時の振り返りをする。	・前時に、個人で考えた気づきを表にしてまとめ、学級全体で共通理解を図る。	全体		
〈共通点〉 ・国語や算数など、日本と同じ教科が多くある。 ・月曜日から金曜日まで週に5日間ある。 〈相違点〉 ・始まる時間と終わる時間が早い。 ・休憩時間が長い。 ・給食やそうじがない。 ・音楽や体育の授業がない分、国語や算数などの授業が多い。 【児童の疑問や予想】 ・エルサルバドルの方が勉強に力を入れているのでは…？ ・早く帰って、午後は家の手伝いをしている…？ ・給食がない分、長い休憩時間の間に食べているのかなあ…。					
	・本時の課題を伝える。	・本時の課題をつかむ。			
	写真からエルサルバドルと日本の学校を比べよう				

展開 25分	・①授業の様子 ②休み時間の様子 ③学校にあるもの ④掲示物の4種類の写真を使ってフォトランゲージを行わせる。	・4種類の写真をグループごとに見て、気づいたことを模造紙に付箋で貼っていく。時間になったら、グループごと場所を移動し、別の種類の写真を見て回る。	グループ	・話し合いが進まないグループには、具体的にみるポイントを助言しながら回る。	・グループや全体での話し合い活動を通して、友達の考えの良さに気づき、自分の考えを伝えようとしている。 【模造紙・発言】
		これは何を しているん だろう…？			疑問がいっぱい出てきたなあ、整理してみよう。
	・学校の様子から予想される、この国の抱える課題について話し合わせる。	・写真から気づいたことをもとに、この国が抱える問題について考え、意見交流をする。	全体		
まとめ 10分	〈気づいたこと・疑問に思ったこと〉		〈考えたこと〉		
	・使われていない、古びたピアノがある。 →		楽器が足りないから音楽の授業がないのかな。		
	・休み時間におやつを食べている子や、牛乳のようなものを配っている人がいたりする。 →		給食がない分、休み時間に食べている。自分で買えない子もいそう。		
	・節水のポスターが多い。 →		日本より水を大切にしている。資源が少ないのかな。		
	・写真に写っている子たちは皆笑顔。 →		友達がいて、学校がとても楽しいのかもしれない。		
	・それぞれの学校生活の違いをふまえながら、お互いの良さや課題を比べ合わせる。	・エルサルバドルと日本の子どもの幸せ度を%に表し、その理由を考える。	個人		・世界の国の現状や課題を知り、その問題を自分と結びつけて、自分の生活や生き方を見つめ直すとしている。 【ワークシート】
	〈子どものワークシートより抜粋〉 ・日本の学校の方が設備が良い。ご飯も外で食べるより皆で教室で食べた方がよいと思うから日本の方が幸せ。 ・日本もエルサルバドルも休み時間に友達と楽しく遊んでいるのが良い。節水のポスターが多いことから、エルサルバドルは日本より資源が多くないことがわかった。 ・日本の方が授業で使うものがたくさんあるから、恵まれている。でもエルサルバドルの子たちは私よりも授業を楽しそうに受けている。 ・日本では学校の皆で遊ぶことが少ないけど、エルサルバドルの子たちは他の学年やクラスの子たちとの交流が多いと思った。エルサルバドルの子の方が笑顔が多い。				
	・次時の予告をする。				

(2) 授業の振り返り

[良かった点]

- ・児童にとってより身近な学校生活を比べ合うことで、児童自身の知りたいという興味を引き出すことができた。活動そのものや考えさせることは難しいことを要求してしまったが、児童は最後まで自分たちの生活と重ね合わせ振り返りながら、真剣に考えることができた。
- ・次時のねらいである「幸せとは何か」という視点につなげるため、エルサルバドルの貧しさや不便さを強調するのではなく、笑顔の写真や良さが伝わる資料も用意した。そのため、ただ「エルサルバドルの子たちはかわいそう、大変だ」にならず、「不便な中でもなぜこんなに笑顔なのだろう？」という疑問から、考えを広げる児童もいた。

[課題]

- ・フォトランゲージという手法に関して、児童の自由な気づきや発見を尊重しつつも、教師側のねらいに気づかせるための手立てをしっかり考える必要があった。また、そのための資料選びもより吟味して厳選しなければいけないところが、やってみて難しいと実感した。

(3) 使用教材

- ・本時のフォトランゲージで使用した写真(〈〉内は写真を見た児童の反応やつぶやき)

〈調理員さんみたいな人がいる！〉〈何の授業だろう…あれ？日本人？〉〈トイレは日本と同じかな？〉



〈節水ポスターがずらり！〉
の？〉



〈ピアノ使えるのかな？〉

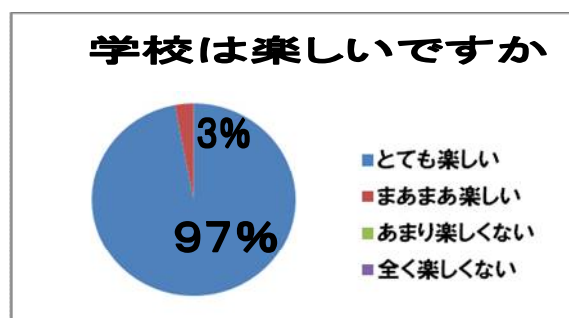
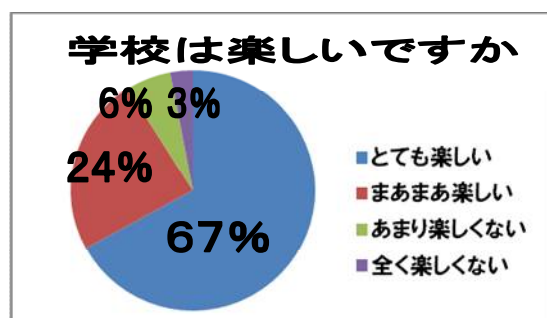


〈先生がいる！一体何している



- ・エルサルバドルの6年生と学級の児童に実施したアンケート結果の一部(本時後の授業で活用)

(左：本校 6-2 児童、右：エルサルバドルの児童)



あなたが幸せな理由は何ですか

- 1 友達がいる 毎日楽しい 14 人
- 2 家族がいる 5 人
- 3 学校に行ける 3 人

- 1 学校がとても楽しい 3 人
- 2 学校で勉強できる
よりよい教育を受けられるから
先生がいるから 各 2 人

[アンケートの結果に対しての児童の反応]

児童はお互いの結果を見比べながら、特に幸せの感じ方が自分たちとは違うことに、新鮮な驚きを感じているようであった。

(4) 参考文献

特になし

8 単元をととした児童生徒の反応/変化

「先生、この間テレビでエルサルバドルがサッカーの試合に出ていたよ」「インターネットで世界の国の

幸福度ランキングを調べたら、日本は43位だったけど、エルサルバドルは11位だった！」

この発言は、単元を終えた後に普段の生活の中で児童が気づき、私に教えてくれた言葉である。また、国語の授業で意見文を書いた際、「日本は発展途上国などに比べて安全で豊かに暮らすことができる。学校にも通い勉強できる。その当たり前だと思っていたことに感謝をして、将来のために今は自分も勉強を頑張りたい。」と書く児童がいた。

この実践をととして、児童の国際理解への関心は高まり、また自己の生き方を見つめ直すきっかけとなったと考えられる。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

[成果]

上記8に記載した児童の反応及び変化のとおり、この実践をととして、児童の国際理解への興味は大いに高まった。また、フォトランゲージという手法をととして、多様な文化や生活、価値観があることに気づき、児童自ら多面的に物事を見て考える力が着実についたと考える。

特に、学習する前は中米の国だと聞いて、「貧しい」「発展途上」と、マイナスなイメージをもっていた児童が多くいたが、さまざまな視点からエルサルバドルを知っていくことによって、この国の良さに気づき、国際協力の大切さを考えることができた。さらに、その比較から自分達の教育環境の良さを知り、改めて自分の学ぶ姿勢を見直す児童もいたことが、一つの成果であると考えられる。

[課題]

「私自身が教材となり、まずは世界の現状を知ってもらいたい」という思いから実践計画を立てたため、今回の授業は教師主導の情報発信や活動が多かった。今後、他の先生方がこの単元を共通して実践していけるようにするために、また総合の学習の時間で求められる「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成」や「探究的な学習」を踏まえた実践にしていけるために、年間指導計画に沿った内容の改善が必要であると痛感した。

[改善策]

児童自身が興味のある国を様々な方法で自分で調べ、友達と交流を図る活動を取り入れる。その中で世界の課題に目を向けた児童の気づきを拾い、教師側からその1つとしてエルサルバドルという国を紹介し、世界の現状と課題やその解決策について考えていく展開を作りたい。

「誰にでもできる普遍性」「各教科、領域のねらいに沿った単元計画」を、来年度以降の自身の課題として、今後も授業実践に取り組んでいく。

10 教師海外研修に参加して

今回の研修をととし、まずは私自身が全く無知であったエルサルバドルという国の文化や生活について、国が抱える問題や日本の国際協力について等多くのことを学び、見識を広めることができた。

また、現地の人々と触れ合う中で、学校に通う子ども達の目がキラキラと輝いていたこと、ホームステイでお世話になった方の温かさや思いやりは、万国共通であることを改めて実感した。違いを知り、多様な価値観をどう認め合い協力していくかが、子どもたちにとっても世界にとっても課題である一方、忘れてはいけないのが、この人間としての共通性、普遍性ではないかと考えながら、今回の国際理解という授業実践をさせて頂くことができた。

この貴重な体験を、これからの未来を担う子どもたちに伝え、国際貢献のあり方や自己の生き方を考えさせながら、私自身も共に学び続けていきたいと考える。